

株式会社カルティベート

代表取締役 社長

開(比嘉)

梨香



知念会長のお声がかりで
いただいた本欄。タイトル
に躊躇はしつつも、2年間の
委員長を含む4年間の教育
委員任期を無事に終えるこ
とができますことに感謝を
込め、本業の離島振興で回っ
た島々の声や、教育行政に関
わった経験をもとに書かせ
ていただきます。

今、沖縄の子どもたちは厳
しい状況におかれています。
全国最下位の県民所得・失業
率・離婚率のなか急激に核家
族化がすすみ、ひとり親世帯
率が全国平均の約1.5倍、
母子家庭は9.9%に上り、
孤食児童率は全国平均の約
2倍、人口千人あたりの深夜
徘徊率、飲酒補導率は全国一

です。8割の人口が集中す
る本島中南部でのこの実態
に対し、県民1割が住む離島
の状況は、39の有人離島中、
中核病院や高校がない小規
模離島が35を数え、毎年過半
数の教師が入れ替わり、各種
大会への参加費や高校進学
における経済的・精神的負担

ます。
都市部・離島ともに問題が
複雑で、すぐには解決できな
いことばかりですが、沖縄が
未来永劫、やさしくおだやか
な県民性を守り、自然や芸能
文化に囲まれて、イキイキと
暮らしていることは、最大の
観光資源にもなるはずです。

沖縄の向かうべき未来

が家庭に重く押し掛かって
おります。島で素直に育つ
た子が、高校入学後、不登
校・退学となるケースが後を
絶たないことには心が痛み

そのためには、県民みんなが
当事者として、教育に関心を
向け協力しあうことの必要
性を最近強く感じていると
ころです。

そんななか、問題解決の糸
口になりそうな事業が実施
されました。那覇市内の小学
生を離島へ送り、島の自然や
文化・生活を体験し、交流を

図るといふ離島体験学習事
業です。島のパワーに触れる
と、都会の子どもたちに変化
が起こります。共同体が支
える昔ながらの離島のくら
しは、子どもたちに弾けるよ
うな笑顔と生きる力の種を
植え付けてくれるようです。

離島には沖縄の喜びも悲
しみも凝縮されています。
離島の課題を解決すること
は沖縄全体の課題解決にも
つながり、離島を通して見る
沖縄の未来は沖縄の未来に
つながるように思えてなり
ません。亜熱帯の広大な海
域に点在し、温帯の南限、熱
帯の北限として多様な動植
物が生息する沖縄。離島の
自然や自然と共生する生活
文化を守り活かすことは、人
材育成のみならずアジアの
中で沖縄が優位性を持って
生きるための可能性を広げ
てくれるに違いありません。